

# 第7期 pES club シナリオ 5

平成 20 年 6 月 1 日  
横浜市立市民病院 薬剤部  
五十嵐 俊  
東京北社会保険病院 総合診療科  
南郷 栄秀  
<http://spell.umin.jp>

あなたは幕增多薬局に勤務する薬剤師です。  
営業時間終了間際に、持海益代さん（43 歳女性）が血相を変えて飛び込んできました。

あなた「慌てていらっしゃるようです。どうされましたか」  
持海さん「今私が飲んでる薬って、赤ちゃんに悪い影響はないかしら。今日、検査したら妊娠している事が判ったの。もし今飲んでる薬で、赤ちゃんにもしもの事があつたら・・・」

そう言うと、持海さんは泣き出してしまいました。落ち着くまで、少し腰をかけてお茶を飲んでもらうことにして、その間にあなたは持海さんの薬歴を調べてみました。持海さんは駅前のブルーシャツメンタルクリニックに通院しており、うつ病の治療として パキシル（20mg）1錠分 1夕食後 が処方されていることが分かりました。

少し落ち着きを取り戻したところで話を聴くと、自身で購入した妊娠検査薬で陽性反応が出たため、現在服用している薬の胎児に対する影響を知りたいとのことでした。

まず冷静になるように話してから、あなたは、本当に妊娠しているのかを確認するために産婦人科を受診するよう伝えました。また、メンタルクリニックの主治医と良く相談するように伝えるとともに、薬の影響について自分でも調べておくと約束しました。

あなたは、SSRI を服用することが、赤ちゃんの先天異常を引き起こしやすくなるか調べてみることにしました。

# 第7期 pES club シナリオ 5 (追加シナリオ)

平成20年6月1日

横浜市立市民病院 薬剤部

五十嵐 俊

東京北社会保険病院 総合診療科

南郷 栄秀

<http://spell.umin.jp>

翌日持海さんは、再びあなたの薬局にやってきました。

29歳で結婚した持海さんはなかなか子供ができなかったため、35歳の頃から7年間、不妊治療を行いました。しかし、不妊治療中に左下肢の深部静脈血栓症を起こして入院治療したため、それきり子供は諦めて不妊治療は中止していました。

今回あなたに勧められてホワイトソックスレディースクリニックを受診したところ、妊娠6週と告げられました。服用していたパキシルは、副作用が心配になったので、結果を聞くまで自己判断で飲むのを止めました。最終月経がいつだったか、もともと生理が不順で子供も諦めていたので正確には記憶していませんが、40日位前だろうとのこと。

持海さんは、4年前に海老伝巢医科大学病院精神科でうつ病と診断され、内服治療を開始しました。当初よりパキシルを服用していましたが、特に服薬歴が変更することはなく、3ヶ月前からは自宅から通いやすいブルーシャツメンタルクリニックに通院中です。最近は症状が良好にコントロールできており、仕事にも日常生活にも特に問題は感じていませんが、時折気分が落ち込む事はあるとのこと。カウンセリングは受けていません。

持海さんは生来健康で、不妊治療を受けた以外にこれといった病気をした事はありませんが、大学生の時に左のアキレス腱断裂で手術を受けたそうです。仕事は化粧品会社の管理職をしています。うつ病の発症は、昇進し管理職となったことや不妊治療などが精神的負担となったためのようです。夫と2人暮らしですが夫婦仲は良好で、両親との関係も問題ありません。家族は協力的です。家族や血縁者に、うつ病をはじめとした精神疾患や先天異常の既往はありません。飲酒は機会飲酒程度、喫煙歴はありません。現在はパキシル以外に服用している薬はなく、サプリメントなども使用していません。

持海さん自身、不妊治療中に静脈血栓症の副作用経験があり、薬害や副作用に対して不安を感じています。その一方で、うつ病の再発も心配しており、本日これからブルーシャツメンタルクリニックを受診し、薬の服用について相談する予定です。予約までまだ時間があるので、昨日質問したパキシルの子供への影響を聞くために、あなたの薬局に立ち寄りしました。